

科目名	専門演習Ⅲ Seminar III						
科目担当者	青木 誠弘 AOKI Nobuhiro						
単位数	4	配当年次	4 年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	学問に限らず、物事を本当に理解したと言えるためには、人から教えられたことを理解するだけでは足りない。そのような受け身的な理解だけではなく、自ら課題を発見し、調べ、そこで得られた知見を他者に伝達するという積極的な行動をとってこそ、何かを理解したと言えるのである。 そこで、専門演習Ⅰから専門演習Ⅲでは、主に憲法に関する判例を題材に、そのような積極的な学習を行ってゆく。 専門演習Ⅲでは、その最終段階として、卒業論文の執筆を行う。						
授業の到達目標	①課題を設定する能力を身に着けること。 ②資料を収集し、読解し、情報を整理する能力を身に着けること。 ③自身の見解を人に伝達する能力を、実際に論文を執筆できる段階にまで高めること。						
授業計画・内容	1	初回打ち合わせ			16	後期打ち合わせ	
	2	前年度の学習内容の振り返り			17	論文指導・第3稿① 相互評価	
	3	卒業論文題目決定			18	論文指導・第3稿② 討論	
	4	資料収集方法、引用方法の確認			19	論文指導・第3稿③ 討論内容の反映	
	5	論文の計画作り			20	論文指導・第3稿④ 校正	
	6	論文指導・初稿① 全体の構成と確認			21	中間発表②	
	7	論文指導・初稿② 序論執筆と確認			22	中間発表③	
	8	論文指導・初稿③ 本論執筆と確認			23	論文指導・第4稿① 中間発表を振り返って	
	9	論文指導・初稿④ 結論執筆と確認			24	論文指導・第4稿② 調査	
	10	中間発表①			25	論文指導・第4稿③ 内容の反映	
	11	論文指導・第2稿① 構成の見直し			26	論文指導・第4稿④ 文章のチェック	
	12	論文指導・第2稿② 本論の見直し			27	仕上げ	
	13	論文指導・第2稿③ 本論のブラッシュアップ			28	裁判所見学	
	14	論文指導・第2稿④ 序論と結論の見直し			29	施設見学	
	15	前期のまとめ			30	まとめ	
授業外学修 (事前学修)	授業時間では論文執筆のアドバイスをするので、そのアドバイスができるよう、前もってある程度の文章を作成したり資料を集めたりすること（年間 60 時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	授業時に聞いたアドバイスを活かして、自身の論文を執筆すること（年間 60 時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	・卒業論文の内容				100%		①、②、③
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	指定しない。各自が、論文執筆に必要な資料を準備すること。						
参考文献	長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ』（第7版）有斐閣 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅱ』（第7版）有斐閣						
その他	学生の理解の度合いや最新のニュースなどを反映して予定が変わることがある。						